第68回　香川生物学会総会　研究発表要旨

香川県海域における後鰓類（軟体動物門，腹足綱：ウミウシ及びアメフラシの仲間）

吉松定昭（多度津高校）
柏尾　翔（きしわだ自然資料館）

香川県海域においてアメフラシはよく知られているもののウミウシの仲間に関してまとまった報告は見られない。海洋生物調査の過程で小型のウミウシ類がよく観察されたため，観察されたウミウシ類を写真記録に基づき同定し，取りまとめを行った。

ウミウシ類は分類に基づく一群を表す名称でなく，狭義では後鰓類裸鰓目の種を表し，広義では後鰓類の多数の「目」に属する種を含める（例えばアメフラシを含む）。

香川県海域から裸鰓目に属する27種が採集された。

後鰓類に範囲を広げると58種が採集された。大阪湾では約200種が知られており，香川県海域でもより多くの種が生息していると考えられる。

殻を持たない種が大多数で，固定が困難で，固定標本として残すことが難しい特殊性をもつことから，固定方法や研究上の標本の扱いについて述べるとともに調査方法（見つけ方・観察・記録）について紹介する。

三豊市仁尾町の干潟でヒガシナメクジウオとシャミセンガイ類の一種を採集

庄司宜永・片松謙吾・吉松定昭・槇　英幸
（多度津高校）

2016年８月１日に三豊市仁尾町の干潟（塩田跡地前浜）で行った干潟調査でヒガシナメクジウオ（*Branchiostoma belcheri*）とシャミセンガイ類の一種（*Lingula* sp.）を採取したので報告する。

大潮の干潮時（15時～16時30分，高松港の最干潮潮位，36cm）に４名で調査を行なった。沖にアマモ場が広がり，陸側にコアマモ場及びウミヒルモが点在する砂干潟でヒガシナメクジウオ３個体，シャミセンガイ類の一種３個体と片殻２個を採集した。

ヒガシナメクジウオは近年，減少傾向にあるとされ，特に干潟域では絶滅が危惧されており，干潟の生息地は大分県中津干潟，広島県竹原市ハチ干潟などわすかである。香川県海域では沖合域の瀬においてまれに採集されるが，干潟域での採集は86年ぶりの貴重な発見と考えられる。

シャミセンガイ類の一種は2012年以降，仁尾町の干潟において採集されている。香川県下の他の干潟でも，近年採集例が増えており増加傾向にあると考えられる。